

機関名: (地独)北海道立総合研究機構水産研究本部

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、実習等)
2019年 7月～9月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: (地独)青森県産業技術センター水産総合研究所

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、実習等)
2019年 7月～9月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: 秋田県水産振興センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、実習等)
2019年 7月～9月	・秋田県最南端に位置するにかほ市において、アワビの漁獲量が大きく減少した一方で、サザエの漁獲量が大きく増加した。令和元年8月までの漁獲量は、アワビが前年比53%、過去5年平均31%であったのに対し、サザエは前年比323%、過去5年平均942%であった。 ・アマダイ類(アカアマダイ)の漁況が5-6月に引き続き好調で、漕ぎ刺網と底びき網を中心に9月の漁獲量は前年比1.6倍であった。 ・スルメイカは従来の主漁期である5-6月の漁獲量が前年比0.2倍と低調だったのに対し、9月は前年比3.6倍で、県北部海域の底びき網漁場で局所的に濃い魚群が形成された。	特になし	特になし	特になし

機関名: 山形県水産試験場

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、実習等)
2019年 7月～9月	・スルメイカ漁は、小型、中型いか釣り共に平年を下回っており、小型いか釣り漁業は産期を過ぎた9月以降も水揚げが続いている。一方、底びき網漁業によるスルメイカの水揚げは近年増加傾向にある。	・山形県沿岸の上部観測結果によると、表層は「やや高い」から「かなり高い」と高水温の傾向にあった。 ・春から「モイロサルバ」の目撃情報が相次いでいたが、9月の底びき網漁業解禁以降は「オオサルバ」の入網が多く報告されている。 ・大型クラゲの入網が報告されているが、いずれも1～2個体/日と少量である。	特になし	特になし

機関名: 新潟県水産海洋研究所

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、実習等)
2019年 7月～9月	特になし	・サルバ類(モイロサルバ)の出現は前月から継続。7月は広い範囲で出現場所によっては9月まで出現した。	特になし	特になし

機関名: 富山県農林水産総合技術センター水産研究所

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、実習等)
2019年 7月～9月	・7月にクロマグロ小型魚が来遊し、約20トンの水揚げがあった。			

機関名: 石川県水産総合センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、実習等)
2019年 7月～9月	・小型いか釣りのスルメイカ漁場は例年、6月下旬以降新潟県以北に移るが、今年は漁場の北上が遅く、7月に入っても県沿岸での操業が活発であり、7月の同種の漁獲量は1,210トンで直近の5年平均値の140トンを上回る水揚げがあった。	・5月下旬から出現したサルバが7月中旬までみられ、ごち網、刺し網等の操業に支障があった。	特になし	特になし

機関名: 福井県水産試験場

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、実習等)
2019年 7月～9月	・いか釣り漁業によるスルメイカ漁獲量は、7月は138t(前年の6.3倍、平年の5.8倍)、8月は77t(前年の38.5倍、平年の25.7倍)、9月は、62t(前年の328倍、平年の10.3倍)と例年になく多く漁獲された。 ※平年値は2009-2018年の10年平均	特になし	特になし	特になし

機関名: 京都府農林水産技術センター海洋センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、実習等)
2019年 7月～9月	・サワラ(魚体重1kg以上)の漁獲量は、約488トンであった。この値は、過去5ヶ年平均の約5.8倍、昨年(2018年)の23.9倍である。	特になし	特になし	特になし

機関名: 兵庫県農林水産技術センター但馬水産技術センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、実習等)
2019年 7月～9月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: 鳥取県水産試験場

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、実習等)
2019年 7月～9月	・毎年、沖合底びき網漁(以下、沖底という)解禁直前の8月に試験船「第一鳥取丸」で着底トロール網調査を実施(水深200～250m、14定点で30分曳網)。この調査による2015年から2018年のスルメイカの1曳網あたりの平均漁獲量は0.8～1.8kg程度であったが、2019年は12.1kgと直近4か年と比べて大幅に増加した。また、2019年9月の沖底によるスルメイカの漁獲量は、過去30年間で2番目に多かった(約40トン)。	特になし	特になし	特になし

機関名: 鳥取県栽培漁業センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、実習等)
2019年 7月～9月	・ケンサキイカの来遊が遅れたが、7.8月は好漁。ただ、ブドウイカの来遊が見られず9月はほぼ漁獲なし。 ・サワラ当歳魚の来遊が遅れ、9月上旬にやっと見られた。 ・ソデイカの来遊が7月下旬～8月上旬に見られたが、8月中旬以降鳥取沖での分布密度は低下(台風10号の影響で沖合域に逸散)。9月下旬からやっと漁獲本格化。	・7月中旬～下旬の沿岸水温が例年より2℃程度低く推移した。 ・大型クラゲが7月下旬～8月中旬に来遊した。	特になし	特になし

機関名: 鳥取県水産技術センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、実習等)
2019年 7月～9月	【ケンサキイカの不漁】 ・沿岸いか釣りの7～9月のケンサキイカの漁獲量は76トン、前年の49%、過去5年平均(平年)の34%であり、非常に低調に推移した。特に9月は漁獲量が1.4トンで、前年の3%、平年の1%に低下した。 ・沖合底びき網でもケンサキイカは不漁であり、8～9月の漁獲量は1.8トン、前年の2%、平年の4%に減少している。	特になし	特になし	特になし

機関名: 山口県水産研究センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、実習等)
2019年 7月～9月	・川尻・大井湊地区における一本釣によるケンサキイカの水揚げ(4～8月)が前年、平年を大きく下回った。(前年比29%、平年比26%) * 平年: 2014～2018年	・7月中旬～下旬にかけて定置網に大型クラゲが大量(1000以上/網)に入網した。	・公益財団法人山口県栽培漁業公社と共同で実施したシロアマダイ種苗生産試験により、全長40mm種苗8万尾の生産に成功した。(7月)	特になし